

# 上京

## 史蹟と文化

2007 VOL. **33**



# 美を語る

上京を画いた名画

「七夕踊」

(案本 一洋画)

この一洋の作品を初めて見たのは、もつ二〇年以上も前のことです。元治元年（一八六四）の禁門の変、いわゆる「どんど焼け」の際、兵火を被つたという堀川に近い古い商家のお座敷で拝見しました。小振りな四曲の屏風に、優美な踊り衣裳の少女が五人、大正時代初期の京都の日本画にありがちな、油絵調の少し濃い色彩で画かれています。少女達の瞳は円く、大きく、泰西名画の少女のようにつぶらでした。題名は「七夕踊」。白峯神宮の精大明神例祭の行事で、蹴鞠と七夕小町踊りが催されますが、その七夕小町踊りと呼ばれている行事に題材を求めた作品なのです。この行事は現在も、七月七日に行われていますので、絵を拝借して展示するからには是非観たいと思い、その日待ちました。しかし、残念なことに、当日は午後から大雷雨となり、行事は中止となってしまいました。結局それ以後、行事を観る機会がなく、未だに観ておりません。

白峯神宮の七夕踊りの由来や風俗は、どなたか、より詳しい方にお聞きしたいと思いますが、この作品で見えるかぎり、祇園祭の稚児の風俗と同様、きわめて古風で優雅。いわゆる上国の趣を伝えています。



美術史家

加藤 類子

元禄時代（十七世紀末）の華やかな衣裳をつけた十三人の少女が、かつては文使い、花使いの道中に従って御所へ伺候したといいますが、この絵の画かれた大正時代頃はどうかだったのでしょうか。少女らは手に手に鼓を提げて、急ぎ足に木橋を渡つてゆきます。「七夕踊」が画かれたのは、大正七年（一九一八）、作者である案本一洋二十五歳の時です。

明治二十六年（一八九三）、下京の油小路四條上ルに、染織図案を家業とする家の長男に生まれた一洋（本名謹之助）は、高等小学校を卒業すると、京都市立美術工芸学校へ、そして更に、京都市立絵画専門学校へと進みました。これは、当時の京都の、染織工芸を業とする家の子弟の多くが選んだおきまりのコースでもありませんが、祖父、父も日本画の素養のあつた案本家では、子供達が将来、日本画家として立つことを望んでいたのです。大正四年、謹之助は絵画専門学校を卒業すると、山元春拳の画塾（早苗会）に入門しました。春拳は当時、円山応挙以来の写生画の伝統を嗣ぐ円山派の旗手として、四條派の竹内栖鳳と並び称される存在でした。

日本画の近代化を図るために写真術を学び、流水の表現や岩石の描法などに、新生面を拓いたことはよく知られています。

塾生となった謹之助は、「一洋」の雅号を授かり、この年の第9回文部省美術展覧会（文展）に、「壬生狂言の楽屋」と題した作品を出品して初入選します。「道成寺」や「安達ヶ原」などの出し物を演じ終わつた翁と、般若面を手に語り合う若い壬生寺の僧を画いて、中身もある仲々の力作でした。そして、翌大正五年の文展には、盂蘭盆の民間行事を画いた「送り火」を画きました。京都に豊富な季節毎の民俗芸能や行事を素材に、一種の風俗画に仕立てたものですが、東京の日本美術院の画家たちが画く歴史画も、若い一洋には、画いてみたい憧れの対象だったに相違ありません。しかし、一方、一洋の周辺では、西洋絵画、特に、ゴーギャンやセザンヌに象徴される後期印象派の画家たちの作品や、イタリア初期ルネッサンスの画家たちの作品、あるいは、古代インドの石窟寺院の壁画に見られる妖しい官能性を秘めた菩薩たちが、若い画家の関心を集めていました。大阪の院展画家、北野恒富の作風なども、一洋を刺激し



案本 一洋作 七夕踊 1918年 個人蔵

たことでしょうか。迷いの中で揺れ動いた時代と言えそうです。「七夕踊」は、一洋のこのような迷いの時代のさなかに画かれました。けれどこれは、同時期の他の作品に較べると、非常に素直な作品です。観念的な描写は一切なく、少女たちは美麗な時代衣裳を纏つて

いながら生き生きと活発で、まるで前に行く祭の行列に追い付くことと急ぐかのように見えます。実際の取材、写生の力がありありと出た作品です。知人の依頼に応じて画かれたもので、いわゆる展覧会への出品画ではありませんが、心を尽くして画かれています。余程懇意な、大切な依頼者であつたのでしょう。

大正末頃から一洋は次第に、端正な大和絵の様式による歴史画を専ら画くようになってゆきました。歴史画は京都の画壇では、どちらかと言えば少数派です。圧倒的に花鳥画の多い環境の中で、一洋の存在は、菊池契月とともに貴重なものでした。住居も京都御所に近い上京区下長者町新町に移して、朝な夕なに京都御苑や大内山を望む環境で画きました。また、幼少時より始めた謡曲や仕舞は一洋の作品に深い影響を与えました。

昭和の一洋は母校の教授として、後進の指導に熱心に当たりました。戦後は大和絵から離れた、風景画に新境地を求めましたが、昭和二十七年（一九五二）、五十八歳で世を去りました。

# 大 小路

おおじ  
こうじ

上京の史蹟

その15

中立売通



## 中立売通



中立売通は烏丸通に面した京都御苑の中立売御門に始まります。京都御苑の周囲の公園化に

とんどが明治初年の公園化に  
町通まで約一・八キロ、平安京で

よって現在地に移転しましたが、この門は江戸時代から同じ位置に建っています。ここは京都御所の勝手口である御清所門おきよところに通じる公家町の通用門でした。

烏丸通から西へ一直線に六軒

は幅四丈（約一二メートル）の正親町小路に当たります。正親町とは正親司があつたところから通り名となりました。正親司は「おおきみのつかさ」と読み、皇族の戸籍を扱う役所でした。

さきに一直線の道路と書きましたが、よく見ると舗装で色分けされた車道と歩道が少しずつ喰い違っており、ところどころに植込みも見られます。中立売通は平成三年に堀川までの七〇メートルほどを車と人が共存するコミュニティ道路として整備されたからです。

烏丸通から西へ入った北側に中立売室町交番があります。この一画に明治十二年に上京警察署が設置され、明治二十五年に中立売警察署と改められました。のち新町下長者町に移り、今年の三月三十一日に西陣警察署と統合するまで存続しました。



中立売御門

## 文京地区



室町から西洞院までの二町の間は文教地区といえるような区域でした。北側には明治二十四年に市立第一高等小学校、明治二年に後の市立中立売小学校、南側には明治三十五年私立女子手芸学校がそれぞれ開校しています。

第一高等小学校は学制改革



コミュニティ道路

(六三制)により上京中学校となり、中立小学校も統合して新町小学校が発足しました。手芸学校も橘女子高校と改称しましたが伏見へ移転し、そのあとはホテルになっています。

新町東入の北側には、幕末京都の宮廷画家として大きな画派を誇った原家の住宅が最近まで残り、その南側には文化・文政期の儒者として知られた皆川淇園(二七三四〜一八〇七)が住まっていました。また中立小学校の向

かいにあった正念寺もホテルの建設により北側の西洞院角へ移っています。

小川の東北角には国文学者で仮名書家として知られた山本行範(一八七二〜一九四一)の住宅があり、今年六月に国の登録有形文化財に登録されました。木造二階建瓦葺の主屋は建築面積二五八平方メートル、昭和十五年頃に建てられ洋間を付設し、意匠、規模ともに優れた近代和風住宅です。南側には正門、西側に勝手門を開き、通りに面した白壁の土蔵とともに板塀で囲み、落ちついた景観を形成しています。

その向かい側は昭和十二年に現在地に移るまで上京区役所があったところです。明治十二年、京都府に上京区と下京区が置か



山本家住宅

れ、ここに上京区役所が開設され、やがて明治二十二年、京都市の自治権が認められ、知事から京都市長の管轄に移行します。なお、上京区の南部は昭和四年に中京区となり、北部は昭和三十年に北区となりました。

老年の信用  
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社 京都市中京区烏丸通三条下る ☎075(221)-4000  
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

公益社北ブライツホール(堀川柴明)	京都市北区柴明通堀川東入 ☎ 075(414)0420
公益社中央ブライツホール(五条大和路)	京都市東山区五条通大和大路 ☎ 075(551)5555
公益社南ブライツホール(堀川八条)	京都市南区堀川通八条下る西側 ☎ 075(662)0042
公益社西ブライツホール(五条西大路)	京都市右京区五条通西大路西入南側 ☎ 075(322)0042
公益社宇治ブライツホール(宇治横島)	宇治市横島町(文教大学前) ☎ 0774(20)0042
公益社滋賀ブライツホール(大津)	大津市朝日が丘1丁目 ☎ 075(523)0042

## 旧西陣電話局



油小路の西南角に異様な壁面を見せる建物があります。これが旧西陣電話局で、京都市の登録有形文化財から国の登録有形文化財となり、昨年七月には国の重要文化財に指定されました。大正十一年、まだ軒の低い町家が密集した中に突如あらわれた三階建の洋館、しかもその壁画や庇裏には羽衣をまとったような女性像のレリーフがはめこまれており、その数は正面に五十枚、東側の庇に七十二枚、さらに抽象化されたトルソーが三

体、女性の電話交換手や

西陣織の女工を意識したのかともいわれました。当の女工らは赤らめた顔を伏せて通り過ぎたという話も語り伝えられています。

これを設計したのは岩元禄（いわもとろく）（一八九三〜



旧西陣電話局



一九二二）という逓信省の若い設計師で、表現主義的な建築家として頭角をあらわし、独創的な電話局局舎をほかにも二局設計しており、母校の東京帝国大学の助教にも任せられました。二十九歳の若さで亡くなっています。

正面には半楕円形断面の柱三本を立て、二階の弓形出窓の周囲にレリーフを半楕円形に飾りつけ、

柱の上部には裸婦像をのせた大胆な意匠は、岩元禄の現存する唯一の作品として貴重な建造物とされています。

## 堀川第一橋と北野線電車



堀川には石橋がどっしりと架かっています。欄干の親柱には「堀川第一橋」、明治六年の刻銘があつて百三十四年の歳月を経ています。この橋については本誌二二号（平成十四年三月刊）の堀川通で、すでに書いていますので詳細は省略しますが、橋の下へは西北詰に石段がありますので気をつけて降りてください。見事な石の造形を下から見るができます。

明治二十八年四月、第四回国内勧業博覧会が岡崎で開かれるのを機に、伏見京橋の舟乗り場から竹田街道・木屋町・二条通を経て会場まで日本最初の営業用電車が開通しました。その八月、木屋町二条から寺町・丸太町・烏丸・下立



堀川第一橋

新・古茶道美術品

清昌堂  
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366

FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市ヶ谷甲良町1-8

〒162-0856 TEL (03) 5261-4566

FAX (03) 3235-5677



# 京都御苑 中立売御門

● 中立売警察署跡

◎ 上京中

◎ 新町小

● 山本家住宅

● 堀川第一橋

## nakadachiuri dori

● 西陣京極

● 烏丸通

● 室町通

● 新町通

● 西洞院通

● 小川通

● 油小路通

● 堀川通

● 葎屋町通

● 猪熊通

● 黒門通

● 大宮通

● 聚楽第東濠跡

● 智恵光院通

● 裏門通

● 聚楽第跡石標

● 浄福寺通

● 千本通

● 六軒町通

売を府庁前まで、さらに九月には東堀川を中立売まで延長します。その後、明治三十三年になって中立売通の南側を拡張して下ノ森まで開通したのです。

東堀川から中立売へ、堀川第一橋の下流側を急カーブで曲がり鉄橋を渡りました。六十年ほど前の終戦直後、この鉄橋から電車が脱線し堀川へ転落するという大事故も起きています。今も堀川の西岸には煉瓦造の橋台が残り往年の鉄橋を偲ばせています。やがて、この橋の下にも水が流れ、親水でできることを期待しましょう。

大宮から西方一帯は聚楽第のあったところです。これも本誌二〇号（平成十三年三月刊）に述べておりますので省略しますが、正親小学校の東、裏門通の角にある小さな石標だけが、その名残りを示しています。この石標もコンクリート塀に接して見付けにくかったのですが、最近フェンスになり下部が掘り起こされました。



北野線中立売鉄橋橋台

で、わかりやすくなりました。なお、大宮の東南角のハローワーク西陣の工事の際に発見された聚楽第東堀跡の金箔瓦は、平成四年六月に国の重要文化財に指定され、初めて聚楽第が文化財の仲間入りをしました。

千本を越え六軒町で一条下ノ森へ斜めに新道が開かれ、こども文化会館のところにあった北野車庫にたどりつき、明治三十五年、北野天満宮の大萬燈祭に合わせて線路が延長されました。

(出雲路敬直)

お気軽にご相談下さい！/ 賃貸・売買から建築・リフォームまで。

**ERA**  
MAXIMIZE YOUR HOME

株式会社 **ハウズ**

0120-4970-26

〒606-0864  
京都市左京区下鴨高木町6  
TEL.075-706-1715 FAX.075-706-1714  
URL: http://www.erahowse.com

歴史文字シリーズ

伝 達 浪 漫

「ハゲタカの碑」一権力のしるしとして、手にして敵を屈服させると記されている。

**和光印刷株式会社**

〒602-0012 京都・烏丸通上御雲前上ル TEL.075-441-5408代  
E-mail: info@wako-print.co.jp

# 上京の埋蔵文化財

## 大極殿出土の瓦

### 大極殿と朝堂院

千本丸太町の交差点付近には、平安時代、大極殿と呼ばれる建物がありました。大極殿は現在の国会議事堂に相当する建物です。桓武天皇がこの中央に設けら

れた高御座に座して、平安京で最初の朝賀を受けたのは延暦十五年（七九六）正月のことでした。大極殿は朝堂院と呼ばれる施設の正殿で、朝堂院は、八省院とも呼ばれ、中務省・式部省・治部省など八省の役人が執務を行った場所でした。

周囲は塀と廊下が組み合わされた回廊で囲まれ、南北一五六丈（約四六六メートル）、東西六四丈（二九メートル）という広大な敷地を占めていました。（図1・図2）これは現在の千本通二条から丸太町通りを越えたあたりまでがその範囲に入ります。大極殿はこの北部、龍尾壇という壇の上に建っていました。東西十一間（約五三メートル）、南北五間（約二二メートル）の巨大な建物であったと推測されています。現在、岡崎にある平安

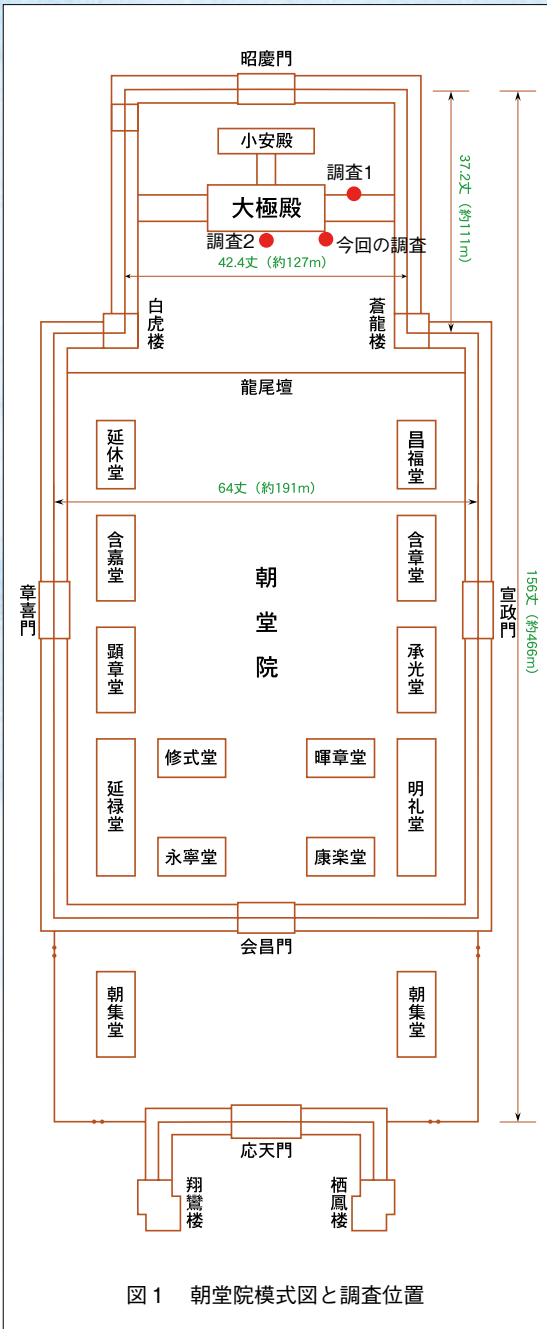


図1 朝堂院模式図と調査位置



図2 平安宮模型（京都アスニー展示）



神宮の拝殿は遷都一一〇〇年を記念して、この大極殿を八分の五に縮小して復元したものです。

## ■大極殿の発掘調査■

大極殿は、千本丸太町の交差点付近の地下に眠っています。この辺りは道路とその周辺に広がる店舗や民家が密集している所であるため発掘調査が困難で、その遺構はほとんど確認できていません。わずかに一九八四年に実施された



図3 大極殿院北回廊（1984年度）（北東から）



図4 2006年度調査地全景（東から）



図5 瓦がみつかった土壌（穴）

調査でみつかった瓦の中には緑釉瓦（緑色の釉薬を施した瓦）が多く含まれていました（図6）。緑釉瓦は、平安京内では大極殿のほか、豊楽殿（饗宴の場として朝堂の西隣に造営された豊楽院の正殿）、東寺や西寺など特に重要な建物だけに葺かれた特別な瓦です。今回みつかった瓦は、その位置から大極殿に葺かれていたものとみてよさそうです。しかもよく観察すると焼けた痕跡をとどめ

上京区千本丸太町上ル小山町の発掘調査（図1・調査1）では、大極殿院に付属する北面回廊の基壇の一部がみつかりました。（図3）この基壇は凝灰岩の切石を積み上げて周りを化粧していました。また、一九九四年には千本丸太町の交差点付近で実施したNTTの電話線埋設工事に伴う立会調査（図1・調査2）で、大極殿基壇の整地土と、南側に取り付く階段の痕跡がみつかりました。これらの調

査から、基壇の大部分は既に削り取られており、下端の一部がかるうじて残っている状態であることがわかりました。

## ■二〇〇六年の調査■

二〇〇六年七月、千本丸太町の交差点の北東角（上京区千本通下立売下ル小山町）でテナントビルの建設に伴って、試掘調査を実施することになりました（図1・今回の調査）。ここは、大極殿の南東

隅に当たる部分で、大極殿に関連した遺構が発見されることが期待されました。しかし結果的には、その痕跡は全くみつからず、かわって江戸時代の柱穴や土壇（穴）がみつかりました（図4）。ところが、この江戸時代の土壇の中から平安時代の瓦がたくさん出てきました（図5）。おそらく、周辺に散乱していた瓦を、江戸時代に穴を掘って整理したものと考えられます。

## ■出土した瓦■

ている破片もあります。大極殿は延暦十五年に完成してから、度々火災で焼失し、そのたびに再建されました。最終的には安元三年（一二七七）の大火（太郎焼亡）で焼失してからは再建されませんでした。したが、焼けた瓦はこうした火災の事実を示すものと考えられます。

なお、調査でみつかった緑釉瓦は、軒瓦、丸瓦、鬘斗瓦（棟に用いられる平瓦を半裁したもの）に



2. 鬼瓦

1. 鴟尾

図6 2006年度調査でみつかった緑釉瓦

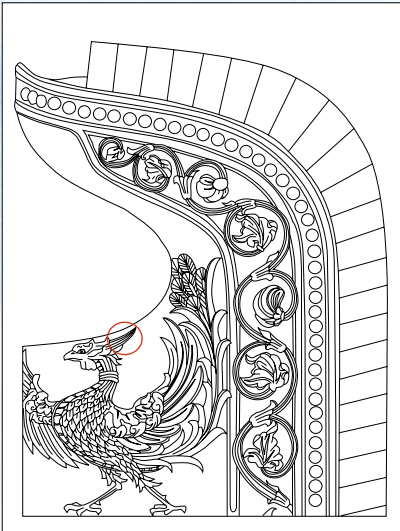


図7 鴟尾模式図（○印がみつかった部分）

限られており、通常の平瓦は含まれていません。このことから大極殿の屋根は、軒先と丸瓦、棟の部分のみが緑釉で、平瓦は通常の瓦が葺かれていたことがわかりました。平安神宮の拝殿は全て緑釉瓦で葺かれているのでこの点は異なります。

## ■三彩の鴟尾■

ところで、これらの瓦の中に普通の瓦とは異なった破片が二点含まれていました。一点は長辺八・七センチメートル、短辺四・六センチメートルの小さな破片です（図6-1）表面には断面

三角形の筋が数条施され、裏側は剥離しています。もう一点（図6-2）は長辺一二・七センチメートル、短辺四・三センチメートルの破片で、片側には棒の先でつついたような小さな穴が多数あいています。詳しく調べた

結果、前者は鴟尾（大棟の両端にある棟飾）の破片であることがわかりました。また、後者は鬼瓦に施された鬼の肩部分であると考えられています。いずれにも表面に緑釉が施されています。ところが、さ

**ROYAL SUMMER BUFFET 2007  
ロイヤルサマーバイキング**

Food & Drink  
約100種類が  
食べ放題!!  
飲み放題!!

写真はイメージです

7/20 (Fri) ▶ 8/31 (Fri) ●場所 2F 宴会場 ●時間 18:00~21:00

大人	小学生	幼児
¥6,000	¥3,500	無料
(税・サ込)		

ご予約・お問い合わせ: 宴会予約係  
TEL: 075-223-8484

京都ロイヤルホテル & スパ  
地下鉄京都市役所前駅から徒歩で約1分

らに観察すると釉薬に褐色や透明の部分があることがわかってきました。そもそも緑釉は中国の唐三彩の影響を受けて日本で作られるようになった釉薬です。黒鉛を加熱融

解して鉛丹を作り、これに白石（石英）を加えると鉛ガラスに近い透明の釉薬になります。さらに緑青（銅の錆）を加えると緑釉に、緑青の代わりに赤土（鉄分の多い土）を加えると黄あるいは褐色釉となります。したがって上述の二点は透明・緑色・褐色の三種の釉薬が施された、三彩であることがわかりました。このことから、大極殿の屋根は緑釉の瓦で葺かれ、最も目立つ鴟尾や鬼瓦には三彩が施された。

## ■ 鴟尾の生産地 ■

ところで、この鴟尾はどこで作られたものでしょうか、この破片と非常によく似たものが、上ノ庄田瓦窯跡（図8）で見つかっています。上ノ庄田瓦窯は北区西賀茂上庄田町にある平安時代前期の官営瓦工房跡で、鴨川右岸の段丘斜面を利用して二基の窯が作られています。段丘の上には工房とみられる建物や、瓦を干す広場も認め



図8 上ノ庄田瓦窯全景（東から）

られます。問題の鴟尾（図9）は二〇〇〇年の調査で見つかったもので、幅約一〇〇センチメートル、高さ七〇センチメートルの胴部の破片とみられます。表面には鳳凰（ほうおう）がレリーフで表現されており、大極殿で見つかった破片は鳳凰の後頭部に長く延びる羽の部分と極めでよく似ています。おそらく同一工人による作品であると考えられます。上ノ庄田瓦窯の調査報告書では、鴟尾の破片はここで作製さ



図9 上ノ庄田瓦窯の鴟尾（○印部が大極殿のものと同類似）

れたものではなく、窯を築く材料として、他から持ち込まれたものであるとしています。西賀茂一帯には、角社瓦窯跡や鎮守庵瓦窯跡など平安時代前期の瓦窯がたくさんあることが知られています。おそらく上ノ庄田瓦窯の鴟尾も今回大極殿で見つかった鴟尾も、これら西賀茂一帯の窯跡で焼かれたものと考えられます。

## ■ おわりに ■

朝堂院の西側に造営された豊楽院の正殿である豊楽殿では、一九八七～八八年の調査で多くの緑釉瓦が出土しています。この中の鬼瓦の一部にはやはり三彩が施されていることが明らかになっています。今回の発見によって、平安宮を代表する豊楽殿と大極殿二つの建物が、緑釉瓦で飾られ、しかも、アクセントとなる鴟尾や鬼瓦が三彩で彩られていた可能性が高くなってきました。

また、これまでの調査で見つかった

た朝堂院出土の瓦には建物を彩っていたとみられる朱が付いているものがあることから、おそらく朝堂院の建物や大極殿の柱は朱色であったとみられます。基壇は凝灰岩で白っぽい黄色であることは間違いないです。このように桓武天皇の造営した平安宮は思った以上に煌びやかな姿だったのでないでしょうか。

（財）京都市埋蔵文化財研究所

吉崎 伸



京・上御霊前烏丸西  
〒605-4106 代

# 「源氏物語千年紀」と上京区

隴谷 壽

来る二〇〇八年を「源氏物語千年紀」と定め、十一月一日には記念式典を予定し、それに向けて京都が中心となり関連の都市を巻き込んで諸行事の計画が進行中である。つまり来年は世界最古の長編小説『源氏物語』が世に知られてから千年にあたるが、その背景を考えてみよう。

今から千年前の寛弘五年（一〇〇八）、政界の頂点にいた藤原道長の娘で一条天皇中宮の彰子（しょうし）は、出産を控えて内裏から生まれ育った土御門殿に里下がりして来た。それに多くの女房が付き従ったが、そのなかに紫式部がいたのである。彼女は道長から「出産前後の様子を詳細に記録するように」と命ぜられ、そうしてでき

たのが『紫式部日記』である。

冒頭に秋色漂う豪邸の様子を「秋のけはひ入り立つまに、土御門殿のありさま、いはむかたなくをかし」と記した紫式部は、皇子の誕生と狂喜する道長、行幸して来て皇子と初対面する一条天皇、三夜・五夜の祝宴など悦びに満ちた土御門殿での催事を日記に活写している。

若宮の五十日の祝いが土御門殿で盛大に行われたのが十一月一日。着飾った女房たちが寄り集まり、中宮と若宮の前には御膳が並べてある。別室の宴席では藤原公任（きんとう）が「このあたりに若紫が控えていますせんか」と几帳の間から問いかけ、聞き流す紫式部。この記述で『源氏物語』の存在を知ることになる。このほか『源氏物語』を女房たちに読ませて聞いている天皇、中宮彰子の前においてある『源氏物語』を見る道長、といった描写もあり、いずれも『源氏物語』の存在の証である。

この外孫の一日も早い帝位を望む道長は、眼病を患う三条天皇に退位を迫り、中宮となっていた娘の妍子（けんし）を悲しませた。小倉百人一首に採られている天皇の有名な「心にもあらでうき世にながらへば恋しかるべき夜半の月かな」の一首は、讓位を一カ月後に控えた冬の皓々と照る月を見ながら心中の苦しみを吐露したものだ。代わって即位したのが皇太子であった九歳の後一条天皇である。

この天皇に九歳年長の威子（いし）の妹）が入内し、寛仁二年（一一〇一八）十月十六日に女御から皇后に冊立された。そのことで三后（太皇太后⇨彰子、皇太后⇨妍子、皇后⇨威子）をわが娘で独占した悦びを道長は「この世をば

葉匠

本宗 玉壽軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入  
TEL (075) 441-0319・414-0319

—いつも新しい感動を—

京都御所西、閑静な住宅街に溶け込むシックな外観。  
さわやかな水のせせらぎが聞こえ、  
やわらかな自然光がふりそそぐアトリウムロビー。  
7つの多彩なレストラン&バーで、  
ブライتن流のきめ細やかなサービスをお届けします。

〔客室〕183室  
〔レストラン&バー〕  
●京懐石「壺（はたる）」 ●鉄板焼「焼（ひもろぎ）」  
●フランス料理「ヴィ・ザ・ヴィ」 ●テラスレストラン「フェリエ」  
●フレンチ「クー・オ・ミディ」 ●中国料理「花蘭（かかん）」  
●メインバー「ムーンシャイナール」

京都ブライトンホテル

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）  
TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360  
ブライトンホテルズホームページ  
<http://www.brightonhotels.co.jp/>



〈平安京復元模型（土御門殿部分）京都市提供〉  
 南北の広い通りが東京極大路（今日の寺町通に相当）で、その右側の広大な敷地が法成寺、大路をはさんで左側が土御門殿である

我が世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」と詠んだ。酔いに任せた歌とはいえ、同じ月を見ながら三条天皇とは大きな違いである。

この一首は再建間もない土御門殿の夜の宴席で歌われたが、その土御門殿では天皇となった三人の外孫が生まれており、まさに道長の栄華の舞台であった。その邸跡は、今日の京都御苑（明治初年ま

で公家町を形成）の東側、仙洞御所の北辺に位置する。一万坪の広さを誇る豪邸であったが、それを示すものは何もなく、すべては静寂の中に眠っている。

この土御門殿と街路を隔てた東には道長が創建し、極楽往生を願って六十二歳の生涯を閉じた法成寺があったが、これも一本の石碑を遺すのみで、その跡には府立鴨沂高等学校が建つ。

土御門殿跡の西には天皇の居所として知られる京都御所がある。その前身が里内裏として用いられたことは何度かあるものの、御所として定着するのは十四世紀中頃からである。そして明治天皇による東京移徙までの五百年余り、この期間がいわゆる禁裏（京都御所）として存在した期間である。

平安遷都から千有余年に及ぶ天皇の居所であった内

裏および京都御所、そして短期の里内裏の多くは上京区域に存在したのである。これらをも含みこむ平安時代の左（東）京の四条大路以北には皇族や有力貴族たちが邸宅を構えていた。そして上京区の南限は昭和初期まで三条通りであったから『源氏物語』の時代には高級住宅街ということになる。

『源氏物語』の書き出しの「いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひける」後宮世界は、弘徽殿・飛香舎（藤壺）・淑景舎（桐壺）など七殿五舎があり、天皇の居所である清涼殿の北東に存在していた。身分に応じた殿舎に住まいする妻たちの天皇をめぐる恋の争奪戦が繰り広げられた場所である。現在、いくつかの殿舎の所在を示す石碑が数カ所に建ち、来年に向けてかなりの数の建碑が予定されている。

それらをたよりに『源氏物語』の後宮めぐりが上京区の新名所となる日も遠くない。さらには平安京邸宅図を手に、道長の栄華の

跡、藤原道隆・定子父子を活躍する『枕草子』の世界、『蜻蛉日記』の作者など往時の居住者を脳裏に描きながらのそぞろ歩きも一興である。

## 筆者のプロフィール

### おぼろや ひさし

同志社女子大学教授  
 日本古代史、特に平安時代の政治・文化・生活空間（平安京）を研究。  
 著書に『源頼光』、『冷泉家の歴史』（共著）、『藤原氏千年』、『源氏物語の風景』、『光源氏が見た京都』、『藤原道長一男は妻からなり』などがある。  
 源氏物語千年紀委員会企画部会委員、  
 上京歴史探訪館運営協議会理事長



名月庵

営業時間 11:00 ~ 21:00  
 オーダーストップ 20:30  
 定休日 なし  
 料理 懐石料理 6,300円～

京都市中京区柳馬場四条上ル  
 075-212-8811  
 HP <http://www.kyoto-tagoto.co.jp/>

京料理のお届けとお召し上がりの店舗です。1階には京料理やお弁当・お寿司のお持ち帰り・お届けの展示、2階はテーブル席、3階は小部屋になります。

※10月6日（土）に「源氏物語」の時代」と題した講演会を開催。受講料8000円。詳しくは上京区役所総務課（電話441-5020）まで。



恒例の「上京茶会」が6月17日に大徳寺塔頭「瑞峯院」を会場にして開催されました。当日は、梅雨時にもかかわらず晴天に恵まれ、450名を越える参加者がありました。

表千家による懸釜で、2席のお茶席が用意されました。有名な2つのお庭「独坐庭」「閑眠庭」を眺めながら、心静かな時を過ごすことができました。歴史と文化が刻まれた「瑞峯院」でいただくお茶には、格別の美味しさがありました。



# 上京茶会

上京区  
イベント



かみぎよう

## 「京菓子教室」

3月23日に「かみぎよう『京菓子教室』」が「俵屋吉富」京菓子資料館で開催されました。京菓子資料館では、お抹茶の接待を受け、「俵屋吉富」石原会長から伝統ある京菓子の歴史と文化についてお話を伺い、資料室の貴重な展示品を見学しました。その後、実際に生菓子「茶巾しぼり」作りに取り組み、出来上がった作品の美しい彩りに参加者からも笑みがこぼれていました。

憲法月間

## 映画のつどい

5月の憲法月間の取組として、5月17日に同志社大学寒梅館ハーディーホールにて、上京区民ふれあい事業実行委員会・上京区地域啓発推進協議会主催、同志社大学学生支援課共催による映画「博士の愛した数式」が上映されました。

この映画は、80分しか記憶がもたない天才数学者と、そのもとで働く家政婦とその息子とのふれあいを描いており、会場には約1200名の来場者が訪れ、あたたかい雰囲気につつまれた上映会となりました。



宴会・婚礼・会議  
宿泊・レストラン

くつろぎ ¥4,200(税サ込)

# ホテル ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町  
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160 <http://www.rubino.gr.jp/>



名物ゆどうふ  
南禅寺 **ゆどう**  
JUNSEI  
左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311  
<http://www.to-fu.co.jp>

## 酢一筋の商い、伝統の滋味。

伝統から未来へ

京・西陣 孝太郎の酢

(有)林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455

TEL (075) 451-2071

FAX (075) 451-8028



「上京史蹟と文化」は上京区役所まちづくり推進課で販売致しております (TEL 441-5040)

花にまつわるエピソード…  
季節も添えて演出します。



心のごもった贈り物 Flower Gift

花束 アレンジメント グリーンバスケット スタンド花 etc

フラワーアレンジメント教室 開催中!!!



本店 京都市上京区丸丸通今出川下ル  
TEL.075-414-8700(代) FAX.075-414-7787  
フリーダイヤル 0120-46-8700  
URL:<http://www.hanakobo.co.jp>

長岡店 長岡京市1丁目セブン通り

TEL&FAX 075-957-0187

大津店 大津市萱野浦 ロイヤルオークホテル内

TEL&FAX 077-545-5587

本店2FにてCafeも営業しております。



創立以来七十余年に  
わたって、  
和やかな家庭的な  
雰囲気にも包まれつ  
就学前教育の  
本流をめざして、  
保育を続けて  
参りました。  
幼児たちは  
楽しい遊びを通して、  
人生に必要な生きる  
力のすべてを手に入れます。

### 学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

[http://homepage3.nifty.com/kyotokitano\\_k/](http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/)



創業文政五年 宮内庁京都御所御用

京菓子司 俵屋吉富

本店 京都・室町上立売 電話 (432) 2211代

烏丸店 京都・烏丸上立売 電話 (432) 3101代

いつまでも健康に——。  
サン・クロレラ

# 安全真話

安心のために。伝えたいのは「真実の話」です。



サン・クロレラAは日本製法特許No.3143636、  
米国製法特許No.5330913を取得しています。

食品の安全性に対する「神話」が崩れだしている現在…。消費者の皆様が目が厳しくなる中で、私たちはあえて伝えたいことがあります。創業以来、品質にこだわり続けたサン・クロレラは「安全」に対する厳しさを知っているということ。その結晶のひとつが「サン・クロレラA」。すべてを自社責任のもとに開発から製造まで管理し、GMP認定工場\*で厳重な検査のもとに生産しています。さらにお届けに関しても自社グループにより直接お客様のお手元へ。製品の正しいご理解と安心してご利用いただくためのアフターフォローも行っています。おかげさまで30年以上にわたってご愛顧いただき、お客様は日本だけでなく世界の国々へと広がっています。もし品質にわずかな不安でもあれば、これほど長い間にわたり愛され続けることはなかったでしょう。安全のために努力を惜しまないという「真実」。これこそがお客様の求める「安全真話」に応えられる理由です。

\*財団法人日本健康・栄養食品協会のGMP基準に合格した認定工場。



サン・クロレラAは日健栄協に認定されています。

財団法人日本健康・栄養食品協会の認定マークは、品目別規格基準に基づき、協会の厳正な審査をパスした製品に対してのみその表示が許可されたものです。サン・クロレラAの製造工場はISO9001の認証を取得しています。

株式会社 サン・クロレラ

〒600-8177 京都市下京区烏丸通五条西南角(サン・クロレラ本社ビル)  
TEL.075-288-3040 FAX.075-288-3041